

所属 英米学科	職名 教授	氏名 光永 雅明	大学院における研究指導担当資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2010年4月～現在	<p>①講義・授業時間中に執筆する小レポートおよび、講義・授業時間外に取り組む課題レポートを随時実施し、講義・授業内容に対する学生の理解をより深めるとともに、個々の学生の到達度を日常的に把握するように努めた。</p> <p>②本学全体で行う授業評価アンケートに加えて、自ら独自の講義・授業アンケートを実施し、その結果を講義・授業の内容や進め方などに反映させてきた。</p>		
<p>① 小レポート・課題レポートの実施</p> <p>② アンケートの実施と、講義・授業へのフィードバック</p>					
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年4月～現在	<p>①大学生向けのイギリス史教科書を2冊分担執筆し (『近代イギリスの歴史』、『はじめて学ぶ イギリスの歴史と文化』)、イギリスの社会・文化の歴史的理解を学生が深められるようにした。</p> <p>②担当する講義・授業では、ほぼ毎回ハンドアウトを作成して、学生側の理解の促進を図った。</p>		
<p>① 教科書の作成</p> <p>② 教材の作成</p>					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『近代イギリスの歴史—16世紀から現代まで』	共著	2011年3月	ミネルヴァ書房	秋田茂・木畑洋一 (編著)	341-356 頁
『英国福祉ボランティアの起源—資本・コミュニティ・国家』	共著	2012年5月	ミネルヴァ書房	岡村東洋光・金澤周作・高田実 (編著)	110-134 頁

『はじめて学ぶ イギリスの歴史と文化』	共著	2012年7月	ミネルヴァ書房	指昭博（編著）	171-177 頁
論文					
「都市住民と自然保護— —20世紀初頭のイギリス における生態学者とヘン リ・S・ソルトの議論」	単著	2011年3月	『研究年報』（神戸市外国語大学）		1-20 頁
「「大地への帰還」——ヘ ンリ・ソルトにおける農村 志向と人道主義」	単著	2011年11月	『神戸外大論叢』62巻2号		57-76 頁
「「文明社会」における動 物たち——ヘンリ・ソルト による動物の擁護」	単著	2013年3月	『外国学研究』85号		55-69 頁
書評等					
「自由主義とヴォランタ リズム——J. S. ミルを 中心として——」〔下記報 告「自由主義とヴォランタ リズム」（2013年11月9 日）要旨〕	単著	2014年11月	『ヴィクトリア朝文化研究』12号		37-43 頁
「有江大輔編著『ヴィクト リア時代の思潮と J.S. ミル—文芸・宗教・倫理・ 経済—』（書評）	単著	2015年11月	『ヴィクトリア朝文化研究』13号		
口頭発表等					
「社会的セーフティネッ ト・セッション」コメンテ ーター	単	2010年3月27日	「進化経済学会」第14回大会（四天 王寺大学）		
「19-20世紀転換期のイ ギリスにおける社会主義 者と「環境保護主義」——	単	2011年3月30日	「英国研究センター」（神戸市外大） 研究会（大学共同利用施設ユニティ）		

ヘンリ・ソルトを中心に」					
佐藤清隆（報告）「戦後イギリスにおけるインド系コミュニティとカースト制」へのコメンテーター	単	2011年12月17日	「イギリス史研究会」第25回例会 （青山学院大学）		
「19世紀末のイギリスにおける社会主義者たちの農村生活志向の変容——ヘンリ・ソルトの場合を中心に」	単	2012年3月17日	「近代社会史研究会」第241回例会 （京都大学）		
「19世紀末のロンドンにおけるオープン・スペースの整備と都市住民——ミース伯爵と首都公共庭園協会の活動を手がかりに」	単	2013年6月1日	「洛北史学会」第15回大会（京都府立大学）		
「自由主義とヴォランティアリズム——J. S. ミルを中心として」	単	2013年11月9日	「日本ヴィクトリア朝文化研究会」第13回大会（甲南大学）		
「J. S. ミルと「ヴォランティアリズム」	単	2014年3月15日	「比較教育社会史研究会」春季例会 （西宮市大学交流センター）		
III 学会等および社会における主な活動					
1991年～現在	社会思想史学会会員				
1991年～現在	経済学史学会会員				
2003年～現在	日本西洋史学会会員				
2014年～現在	日本ヴィクトリア朝文化研究学会会員				